

ロシアの経済成長のキーは＜長寿＞？

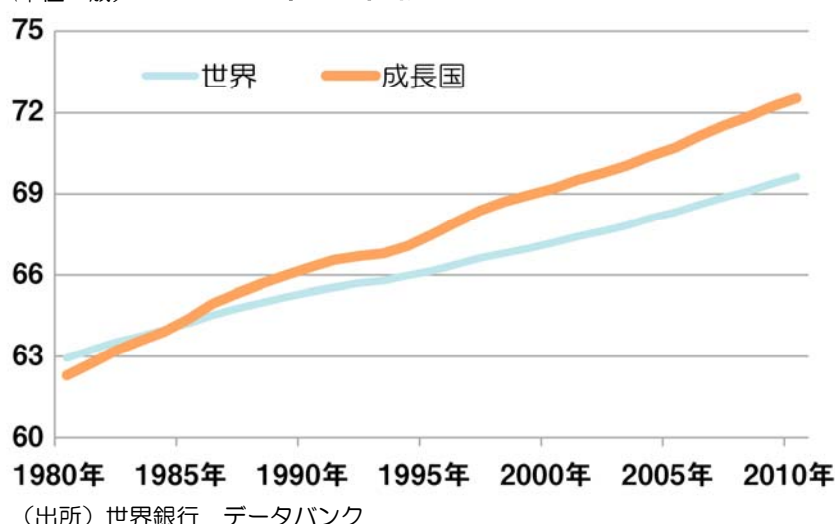
2012年12月5日、115歳の日本人男性が世界最長寿者としてギネス世界記録に認定されました。長寿国として知られる日本に限らず、平均寿命は世界的にも延びる傾向にあります。特に成長国（グロス・マーケット）や新興国においてそのことは顕著です。その主な要因としては、近年の急速な経済成長に伴う、公衆衛生の改善、栄養状態の向上、医療の発達などが挙げられています。

成長国の中でも注目したいのがロシアです。かつてのロシアは世界の主要国の中でも平均寿命が短い傾向にあり、2000年時点のロシアの平均寿命は65.3歳でした。これはもともとロシアの自然環境が厳しいいうえに、ウォッカ等の強いアルコールを大量に消費することで死亡率が高いためと言われていました。ところが近年の医療の発達などが寄与した結果、2011年の平均寿命は70.3歳に達し、死亡者数も前年比5.6%減少しました（ロシア政府発表）。このため今後のロシア人の先端医療に対する需要を見込み、日本を含む諸外国がロシアの医療機器市場への参入を視野に入れています。

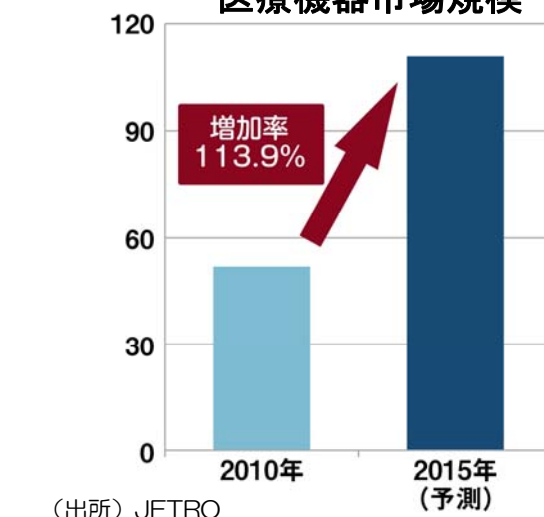
これまでBRICsの一角として注目されてきたロシアですが、今後、平均寿命が延びることによる労働人口の増加、消費市場の拡大などを背景に、更なる経済の活性化が期待されます。

*「成長国」とは、ゴールドマン・サックスが提唱する今後世界経済の成長を牽引するであろう8カ国（ブラジル、ロシア、インド、中国、韓国、トルコ、メキシコ、インドネシア）を指す。

平均寿命の推移（1980年～2010年）



ロシアの医療機器市場規模



成長国について詳しくはこちらから www.gsam.co.jp

本資料は、情報提供を目的としてゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社（以下「弊社」といいます。）が作成した資料であり、特定の金融商品の推奨（有価証券の取得の勧誘）を目的とするものではありません。本資料に記載された過去のデータは将来の結果を保証するものではありません。本資料は、信頼できるとされる資料に基づいて作成されていますが、弊社がその正確性・完全性を保証するものではありません。本資料に記載された市場の見通し等は、本資料作成時点での弊社の見解であり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合があります。経済、市場等に関する予測は、高い不確実性を伴うものであり、大きく変動する可能性があります。弊社及び予測機関は、予測値の達成を保証するものではありません。本資料の一部または全部を、弊社の書面による事前承諾なく（Ⅰ）複写、写真複写、あるいはその他のいかなる手段において複製すること、あるいは（Ⅱ）再配布することを禁じます。

<審査番号:89419.OTHER.MED.OTU> © 2013 Goldman Sachs. All rights reserved.